



阪神高速道路株式会社様 (阪神高速グループ)



全長206.5 kmの関西都市圏の大動脈・阪神高速道路の
建設・管理を担うことで関西のくらしや経済の発展に貢献
社内全端末でFFRI yaraiとアンチウイルスソフトを併用し
オペレーションを変更せずにエンドポイント対策を強化

阪神高速道路は大阪、兵庫、京都地域において全長206.5km、1日に約74万台のお客さまに利用されている関西の大動脈です。阪神高速道路株式会社（以下、敬称略「阪神高速道路」）は、阪神高速道路の建設・管理を担うことで関西のくらしや経済の発展に貢献し、お客さまの安心・安全・快適を実現するため、「先進の道路サービスへ」を企業理念として、さまざまな施策に取り組んできました。

1964年に1号環状線が開通して50年以上が経過してからは、将来にわたってお客さまに安心してご利用いただけるよう、建造物等の修繕、交通安全対策、地震防災対策等を進めるとともに、大規模更新・修繕事業による長寿命化に

導入の背景

“最後の砦（出口対策）を破られる前にできることは何か？”を考え、エンドポイントのセキュリティ対策を検討

阪神高速道路では2015年の日本年金機構の情報漏洩が報道されたところから、標的型攻撃対策の必要性を強く意識するようになりました。実際に阪神高速道路に届く標的型攻撃メールも増加しており、IPA（独立行政法人情報処理推進機構）のサイトで注意喚起されている標的型攻撃メールはほぼ受信しているような状態でした。

そこで標的型攻撃対策メール訓練の頻度を上げて実施してきましたが、回数を重ねるごとに開封率は減少傾向にあるものの、ゼロになることはありませんでした。

「これが実際の攻撃であったならば、数人でも開封し

向けて常に新しい技術を開発し、取り入れながら道路ネットワークの整備を推進しています。

2016年4月には『阪神高速グループビジョン2030』を策定し、関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速道路となるよう「徹底したお客さま目線」を基本姿勢とし、取り組みを始めました。

同社の情報システム室ではグループビジョンに準じた社内セキュリティポリシーに基づき、フィットするソリューションを選定し、社内システムの仮想基盤の安定稼働に向けインフラの整備及び運用管理を行っています。

たら感染してしまう可能性があります。やはりシステム面での防御も必要と考えるようになりました。次世代ファイアウォール等の出口対策は既に行っていましたが、まず最初に感染するのはクライアントであり、出口を出る前に横展開されてしまう不安は残っていました。“最後の砦（出口対策）を破られる前にできることは何か？”を考えた結果、エンドポイントのセキュリティ対策を検討することになりました」（永田氏）

検討の前提条件として“オペレーションが変わらない”ことが求められていたため、利用中のパターンマッチング型のアンチウイルスソフトと組み合わせられるエンドポイント製品の比較検討を行いました。



導入の経緯

キーワードは“多層防御” 同業他社も導入する 「国産」・「ふるまい検知」製品

まず海外製のエンドポイント製品を検討しましたが、PCへの負荷が非常に高く、オペレーションもかなり変わってしまうことがすぐにわかり、選択肢から外しました。また、海外製品の管理コンソールのメニュー等が英語であることも不安要素になっていました。

阪神高速道路では恒常的に同業他社と情報交換する機会を持っており、同業他社がFFRI yaraiを導入検討中であるという情報を入手していたため、阪神高速道路でもFFRI yaraiを検討することになりました。

FFRI yaraiはふるまい検知製品であり、PCへの負荷が軽く、利用中のパターンマッチング型のアンチウイルスソフトや資産管理ソフトとも併用可能である点が評価されました。

「導入のキーワードは“多層防御”でした。アンチウイルスソフトとFFRI yaraiのふるまい検知でエンドポイントの“多層防御”を実現できて、これまでとオペレーションが全く変わりませんでした。管理コンソールで集中管理も可能で、操作も複雑ではなく、メニューが日本語なのも使いやすいと感じました」(永田氏)

導入の効果

資産管理ソフトと連携して 社内全端末にサイレントインストール 動作が軽く、リソースも効率的に使える

現在、FFRI yaraiは阪神高速道路社内の全端末に導入されています。第一段階として情報システム室と一部の部署に導入した後、全社へ展開を行いました。全社展開は

FFRI yaraiと連携させた資産管理ソフトを使って、サイレントインストールでスムーズに行うことができました。

「PCへの負荷も軽く、オペレーションも変わらないため、導入後もユーザーは特に意識することなくFFRI yaraiを使っています。そのため、導入前にユーザーへの説明が省けたのも大変助かりました。また、PCへの負荷がかからないのでリソースが効率的に使えるのもよいですね」(永田氏)

今後の展望

強化したエンドポイント対策に加え 資産管理ツールやGW製品等と連携し より高度なセキュリティ対策に照準

「FFRI yaraiとアンチウイルスソフトの併用でエンドポイントの多層防御の仕組みはできたと感じています」(永田氏)

資産管理ツールとは既に連携済みですが、今後はメールソリューションやゲートウェイ製品等との連携も視野に入れ、より高度なセキュリティ対策を見据えています。



情報システム室 課長代理 永田三郎氏

▶ 導入事例に記載された情報は初回掲載時(2017年11月)のものであり、閲覧・提供される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。導入事例は情報提供のみを目的としています。当社は、明示的または暗示的を問わず、本内容にいかなる保証もいたしません。

▶ 製品・サービスについてのお問い合わせは

株式会社 FFRI

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-18-18 東急不動産恵比寿ビル4階

TEL: 03-6277-1811 E-mail: sales@firi.jp

本製品に関する情報はインターネットでもご覧いただけます。

<http://www.firi.jp/>

■このパンフレットの内容は改良のために予告無しに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承ください。

2017年11月現在